

第 7 回「国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）」の概要

【当日の議事】

- ・平成 28 年度事業の実施結果について
- ・平成 29 年度事業の実施計画について
- ・UNDB-J の財務状況について
- ・UNDB-J ロードマップのフォローアップ結果について
- ・意見交換（2020 年を見据えた今後の取組について）

【議事のポイント】

■平成 28 年度事業の実施結果について

○平成 28 年度の事業実施結果について事務局から報告がありました。

＜主な事業＞

- ・ロードマップの作成及び取組推進
平成 28 年 10 月 20 日、生物多様性全国ミーティング（岐阜）で公表
- ・100 万人の「MY 行動宣言」
平成 29 年 3 月現在：約 4.5 万宣言
- ・国連生物多様性の 10 年日本委員会 地域フォーラム
平成 28 年 11 月 25 日岡山市、平成 29 年 1 月 18 日仙台市、
同 2 月 2 日東京
- ・「生物多様性の本箱」300 館プロジェクト
平成 29 年 3 月現在：126 館・施設
- ・平成 28 年 生物多様性関連情報 一斉報道発表
平成 28 年 5 月 10 日 報道発表
- ・UNDB-J 構成団体の機関誌等を活用した企画記事の一斉掲載
平成 28 年 5 月 22 日（生物多様性の日）周辺に 12 団体の機関誌等
にて実施
- ・COP13 における UNDB-DAY の開催
平成 28 年 12 月 5 日に COP13 のサイドイベントとして開催し、UNDB-J
等の取組を国際社会に発信。また、生物多様性若者ネットワークの
派遣を実施

■平成 29 年度事業の実施計画について

○平成 29 年度の事業計画案が了承されました。

＜主な事業＞

- ・ ロードマップに基づいた取組推進
- ・ 100 万人の「MY 行動宣言」等、生物多様性に関する行動の呼びかけ
- ・ 生物多様性全国ミーティング・地域フォーラムによるセクター間の情報交換・連携促進
- ・ 「生物多様性の本箱」300 館プロジェクト等、主流化に向けた活動プログラム
- ・ 生物多様性関連情報一斉報道発表等による広報・情報発信
- ・ 2020 年を見据えた取組の検討

■UNDB-J ロードマップのフォローアップ結果について

○事務局から、ロードマップのフォローアップ結果について説明があり、その後各委員が様々な視点から意見交換を行いました。

○引き続き、各団体においてロードマップの更新とそれに基づく取組の推進について確認しました。

■意見交換（2020 年を見据えた今後の取組について）

○2020 年（「国連生物多様性の 10 年」の最終年）を見据えた UNDB-J の今後の取組について、発信方法を含めて意見交換が行われました。

○委員の主な意見

- ・ 地方創生を生物多様性の視点で言えば、地域資源による持続可能な生業による暮らしを意味している。世界の共通目標である「SDGs」の達成に向けて、人類存続の基盤である生物多様性を立脚点とした発信をすべき。
- ・ 1 回の（クロージング）イベントだけでは語り尽くせない取組と成果が生まれている。日本各地の成果をリレーして行って COP15 で発信し、COP15 で生まれた新たな枠組みをまた日本に持ち帰るようなことを考えてはどうか。
- ・ 様々な省庁の中で、生物多様性の 10 年に触発された取組が広がっている。これらをきめ細かく拾っていくことが大事。UNDB-J が主体になっていなくても、各省庁の活動も成果としてカウントしていくべきではないか。

○引き続き、UNDB-J 幹事会等で議論していくことを確認しました。